

会議録（要点記録）

会議名称	令和８年度 第１回小金井市精神保健福祉連絡協議会		
開催日時	令和８年５月２０日（水） ９：３０～１０：３６		
開催場所	市役所第二庁舎８階 ８０１会議室		
出席者等	小高会長、茂木委員、菊池委員、牧野委員、執行委員、赤濱委員、鈴木（絵）委員、山岡委員、石川委員、鈴木（澄）委員、小島委員、坂上委員（欠席） 事務局：自立生活支援課長、自立生活支援課相談支援係長、相談支援係主任		
傍聴の可否	可	傍聴者数	０名
会議次第	１ 開会 ２ 委嘱状の交付 ３ 委員及び事務局職員の紹介 ４ 議題 (1) 今年度の目標設定について (2) 精神保健福祉連絡協議会で協議された課題について (3) その他 ５ 次回の開催日について ６ 閉会		
会議結果	１ 開会 ２ 委嘱状の交付 ３ 委員及び事務局職員の紹介 ４ 議題 (1) 今年度の目標設定について ◎事務局 令和６年３月に策定した第７期小金井市障害福祉計画では、令和８年度の地域移行支援の利用者数について、５人を目標としている。現時点では地域移行支援の利用者は１名という状況なので、今年度は退院促進により、長期入院者３人を地域生活に移行できるよう支援することを目標に設定したい。 なお、今年度は、現行の第７期小金井市障害福祉計画の最終年度となっており、来年度、令和９年度から始まる次の期、第８期の計画策定に向けた協議などを今年度進めていく予定。 （資料説明） ◎事務局 表の１番、５３歳の男性。昨年から支援を継続している方で、複数のグループホームの見学を経て、市内に新規開設予定のグループホームへの入居が内定している。グループホームの工事が完了次第、６月頃には本入居になる見通し。 ２番、６４歳男性。今年度、新規で地域移行支援を利用予定。令和		

	7年10月に入院後、グループホームへの退院を病院相談員が調整したが、様々な理由から難航し、入院の長期化が予想されたため、地域移行支援の利用を提案。既に事業者との面接は済んでおり、利用希望はあるが、白内障の手術後、状態が落ち着き次第、地域移行支援の本利用となる見通し。 3番、45歳女性。昨年から継続的に報告している。計画相談の担当者との面談が少し過剰な刺激になり過ぎ不穏となったため、刺激が強くなり過ぎない程度に面談の間隔を空けながら、退院に向けた動機づけの面接を継続している。現時点では地域移行支援の導入には至っていない。 最後に、4番、60歳男性、生活保護受給者。生活保護の更生施設から一旦グループホームに入居したが、入居3か月で再飲酒したため強制退去となり再入院。現在入院中の病院でアルコールのリハビリテーションプログラムに参加している。病気に伴う抹消神経障害があり、歩行障害が多少あるので、リハビリに取り組んでいる。5月に事業者と顔合わせは済んでいて、6月に利用契約の見通し。 ◎会長 今年度は退院促進により長期入院者1名を地域生活移行というのではなく、3名を地域生活に移行ということで意見、質問などはあるか。 (委員からの意見、質問なし) ◎会長 2番について、グループホーム探しの難航というのは、何か特段な事情があるのか。 ◎事務局 本人が認識している自身の能力と、実際の能力にギャップがあり、適切なグループホームへの接続ができていない。支援が手厚いグループホームを幅広く探していればと考えている。 ◎会長 特段意見等ないので3名を地域生活に移行を目標とする。 (2) 精神保健福祉連絡協議会で協議された課題について ◎事務局 令和8年度の進め方として、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて、課題を解消するために何が必要か、どのような施策に取り組むべきか整理してまいりたい。 今後、部会での詳細な検討や先進的な自治体の事例収集なども行うが、現時点で意見、提案などがあれば検討の材料としたい。 (資料説明) ア 中野区地域生活支援センターせせらぎ視察について ◎事務局 中野区地域生活支援センターせせらぎを視察し、ピアサポーターについてヒアリングした。 ○自治体規模 中野区と精神保健福祉手帳の交付件数や自立支援医療（精神通院）の承認件数も比較すると、おおむね小金井市の2.8倍程度。 ○中野区地域生活支援センターせせらぎ概要
--	--

	・職員が非常勤の方を含め100名以上 ・ピアスタッフについては、現在非常勤でピアスタッフの方を2名雇用、週3日勤務。 ○協議会でも話し合われた「たすきがけプロジェクト」について 資料「中野区のピアサポーター総会」の下にある「たすきがけプロジェクト」を参照。 地域の事業所に説明会の掲示を行い、事業周知するところから始め、掲示した事業所に通所されている障がいのある方、利用者の方が興味を持って応募することで、就職希望者を募る、説明会で興味がある方に関してはエントリーをしていただき、判定会、適性の確認を事業者で行った後に、適性があるという方に当事業所以外の法人の事業所にその方を派遣して、業務に関するアセスメントを実施していただく。そして、法人以外の事業所に派遣したアセスメントの結果を経て、採用面接、採用というもの。 2024年度から「暮らす」「学ぶ」「働く」の3つの地域それぞれを住まいの自治体とは別の事業所で働くというのも「たすきがけプロジェクト」の一つということ。ヒアリングしたピアスタッフの方も、中野区の事業所にお勤めの方だが、別の自治体に住んでいるとのこと。 ○ピアスタッフの具体的な業務について 火曜日にピアC a f eという、テーマに沿ったディスカッションや対話を行う場を開いて、そこに参加する。またピア学習会ということで、近隣にある精神科の入院設備のある近隣病院に入院している患者と手紙でやり取りを通じ、退院促進の意欲喚起を行っている。他の病院も調整して範囲を広げていく予定。 金曜日は夕食会の準備のための業務に従事している。 土曜日にピアカウンセリング、心の相談室ということでピアの方が相談を受け付けている。 その他ピア交流会として、ほかの事業所で雇用されているピアの方とも情報交換や交流業務を行っているとのこと。 これ以外の業務時間に関しては、通常どおり事業所の職員として事務などに従事されている。 ○ピアスタッフ本人の感想 仕事のことは普通に相談できている、自分の相談は住まいの自治体にある地域活動支援センターで相談に乗ってもらえている。 ピアカウンセリングについて聞いたところ、形容が難しいが言語以外の情報（表情やジェスチャーなどと思われる）を伝えるような形で、相談者と自身の経験が分かち合える感覚を持てるとのこと。活動が誰かの役に立てること、自分自身も教わることがあると意欲的に説明いただいた。 ○事業の課題について
--	---

	自治体から補助金が出るが、ピアスタッフを正規の職員で雇用するほどの予算を確保できない。 ピアサポーターがスーパーバイズを受ける仕組みがない。 イ ピアサポート加算について 厚生労働省の資料に要件が書いてあり、月100単位の加算が存在する。 ウ 福祉の就労に関する広報について 「市報こだいら」で福祉の現場で働くことの広報を行っている。市民等に福祉の就労に関する促しを行っているという現状を確認した。 ◎会長 昨年度から引き続き、今年度はより具体的に、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた課題と施策について整理し、実際に実践していく流れ。協議会があと2回で、その間に部会が数回行われるという予定の中で、今回、第1回目ということで今後、どういう方向性でこの事業を考えていけばいいのかというところを意見、提案などいただきたい。 (委員質疑、発言) ◎委員 他自治体で退院促進にピアサポートを活用していたが当事者や家族に対するピアの力はすごく大きいと感じた。ただしケアにあたるスタッフ、運営など、いろいろ課題はあると思う。長期入院者への地域移行支援にピアを活用していけるといい。 ◎委員 採用された2名のケアスタッフ本人の感想のなかで、自分の相談は居住自治体にある地域活動支援センターで相談に乗ってもらえるとあるが、普段は自分の自治体の人とは別で1人で来ているのか、困ったときに相談できる形で一緒に来ているのかというところがどうなのか。別自治体では自分の相談できる人とセットで来て、具合が悪いとき途中で退出するときに対応できるような形になっていたかと思うが。 ◎事務局 ヒアリングした方は火金土に出勤し、それ以外は、地元の就労継続支援に通所、いずれも1人で出勤している。 ◎委員 ピアの方を開放病棟に導入して、5%ぐらいの方が退院した病院があると聞いた。現在は認知症の方が多くなっている。 ◎委員 資料に書かれている理念に感銘を受けた。本人の感想に、社会の歯車に、社会の一員になる、それが誰かの役に立つというのが、生きている喜びを得ていることが多いと思うので、そういう場所も小金井市でもできたらと思う。一方、課題として、運営、組織化、資金、旗振り役が誰かなど現時点では想像ができない。 ◎委員 2026年4月に武蔵野市でも、動機づけ支援事業というのがスタートしているとのこと。武蔵野市の場合、自立支援協議会の地域移行支援部会で「にも包括」の協議を令和6年あたりからやっているはず。地元病院と連携をして、実際に退院についてどう考えている
--	--

	のか、地域で生活することをどう考えているかということ、地域移行部会の人たちが、行政の方も含めて、病院のほうに伺って、当事者の患者さんにインタビューをして、そういった内容も踏まえ、4月から動機づけ支援事業、実際に病院のほうに行って、事業がスタートしているというのを聞いた。詳細を確認いただけるとよい。 ◎委員 「たすきがけプロジェクト」をやるにあたっては、たすきがけする先が必要になってくると思うが、どう確保されていったのか。 ◎事務局 例えば各々掲示しているA事業所、B事業所で自治体が異なるだけでなく、別法人の自治体も違う自治体でたすきがけをしているようである。 ◎委員 今後、具体的にピアのサポートの事業を進めていくに当たって、どのようなスケジューリングでやっていく予定なのか。予算のことなど協議会でどう進める考えなのか。 ◎事務局 協議会の意見が最重要だが、現段階の事務局の考え方として、本協議会で、資料の要求や意見などを頂きたい。 また、今年度に関しては9月あたり次回協議会を開催させていただき、予算編成等を行い、令和9年度から事業を実施するところを今想定している。9月に協議会を開く間に部会でまたより細かい議論をさせていただきながら、9月の協議会のほうに諮らせていただき事業を検討したい。 ◎委員 すでに実施しているピア相談員が精神障がいの方で、体調に波があるときに、所属先同士、事業所同士の連携のようなことはあるのかどうか。 リーフレットを昨年度作って、その後退院促進に影響はあったか。 ◎事務局 通所している地元自治体の作業所のほうに行っている模様である。その作業所とせせらぎが連携しているか不明。 以前作ったリーフレットについては、反響はあまりないのが現状だ。 ◎委員 今後ピアスタッフとして活動していくことについて、どういうところに所属していたり、事業所を利用していたりとか、まだわからないなと感じた。 ◎委員 生きづらさを抱えているという方を支援しているが、そこでは利用者が過去のひきこもりの経験も話したり、新たに繰る方に、安心していただける居場所だということで温かく迎えたりしていて、既にピアサポーターのような立場で参加してくれているなと思う方がいる。 ひきこもりの支援で、職員が訪問を何回か繰り返しているうちにだんだん打ち解けて、ピアの方と訪問したところ、とても感触がよかったというのがあった。今後ピアサポーターという形でしっかり形をつくってやっていきたいなと思っていたところ。 一方ピアサポーターが単独で動くのは不安があるのも事実。地域福
--	--

	祉コーディネーターが寄り添って支援するが、そのためにはそれなりの人材も必要になってくると思う。 ◎委員 違う視点で話すが、世の中というのは本当に大きくさま変わりしていて、30年ぐらい前は、とにかく今の福祉の仕事というのは地域づくりを主眼でやっていかないといけなかった。以前は、専門職が支援の必要な人に対してしっかり支援をしていくという仕組みをつくるのが主眼であった、保育所にしろ、老人福祉にしろ、障害者にしろ、様々な支援を整えるところを主眼にやっていった。ところが、今となっては、自分の家のこと、仕事のこと、年を取っても働き続けることなどをされているので、地域の見守りというのが本当に薄れてきている。それをまた再構築するには人材が足りない。 これを元の欲しい人数に戻そうというのも無理があるような状況で、もっとソフトな形で住民が、みんなが、ここでは精神保健福祉、高齢者福祉に必要な見守り、どの地域の人についても気にかけるような仕掛けを意図的につくらないと難しいと思っている。 ◎会長 議論をまとめると、地域包括ケアシステムの構築に向けて数年前から協議が進められており、ニーズ調査を行った結果、人材不足やヘルパーの知識不足が課題として浮き彫りになった。これに対処するため、人材育成や福祉に関心を持つ仕掛けづくりが重要であるとの議論が行われてきた。また、人材確保に向けて他自治体の取り組みを参考にした事例や、ボランティア活動を通じて雇用につなげる方法なども検討されている。 さらに、ピア（経験者による支援）の活用についても議論が進んでおり、ピアスタッフが退院促進や地域包括ケアに寄与する可能性が挙げられている。ただし、予算や運営面での課題や、ピアスタッフへのスーパービジョン（サポート体制）の強化も必要であるとの指摘がなされている。他自治体では入院患者への訪問や相談活動、ひきこもり支援の取り組みが効果をあげており、今後活動の幅をさらに広げることが検討課題となっている。 最後に、人材不足の問題は根本的な課題として引き続き検討する必要がある、地域づくりや包括ケアの取り組みが進化していくことが重要である。 次回の協議会に向け、事務局に対し追加で、提案とか質問はあるか。（特になし） 5 次回の開催について（予定） 日時 後日調整 場所 市役所第二庁舎801会議室（予定） 6 閉会
提出資料	資料1 小金井市精神保健福祉連絡協議会 委員名簿 資料2 「地域移行支援」の支援状況

